

問1-2 暮らしが苦しくなったと感じる理由

問1-2 「苦しくなった」と答えた方にお尋ねします。

あなたが、暮らしが苦しくなったと感じるのは、どのような理由からですか。

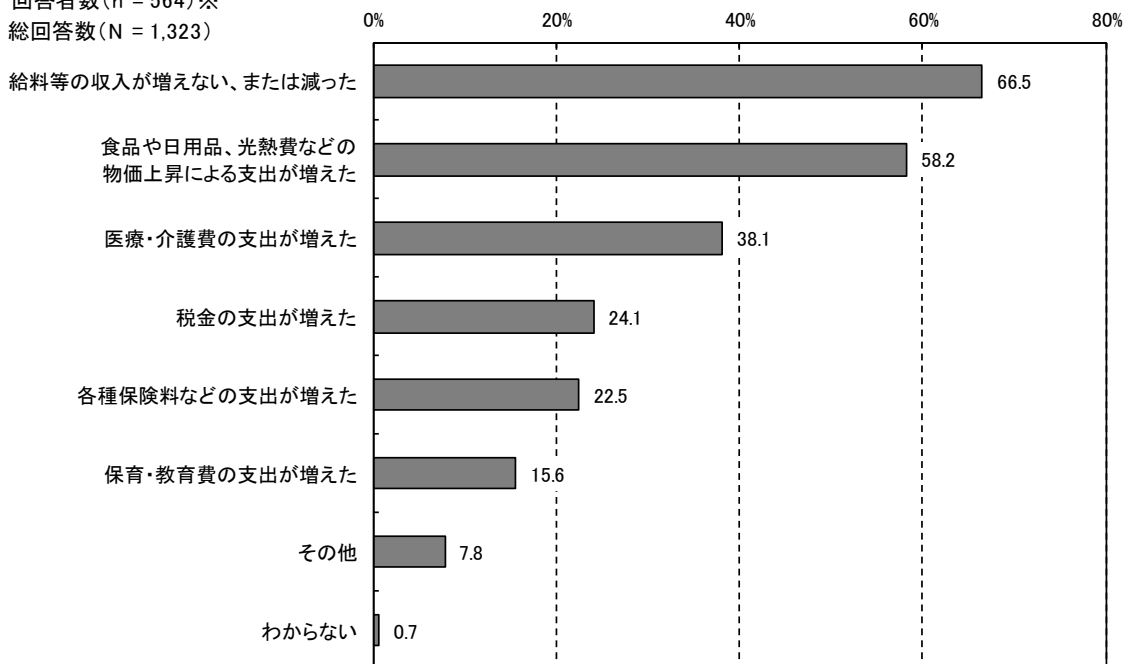
(3つまで)

全体(図1-2-1)で見ると、「給料等の収入が増えない、または減った」が66.5%と最も高く、次いで「食品や日用品、光熱費などの物価上昇による支出が増えた」(58.2%)、「医療・介護費の支出が増えた」(38.1%)の順となっている。

図1-2-1 暮らしが苦しくなったと感じる理由

回答者数(n = 564)※

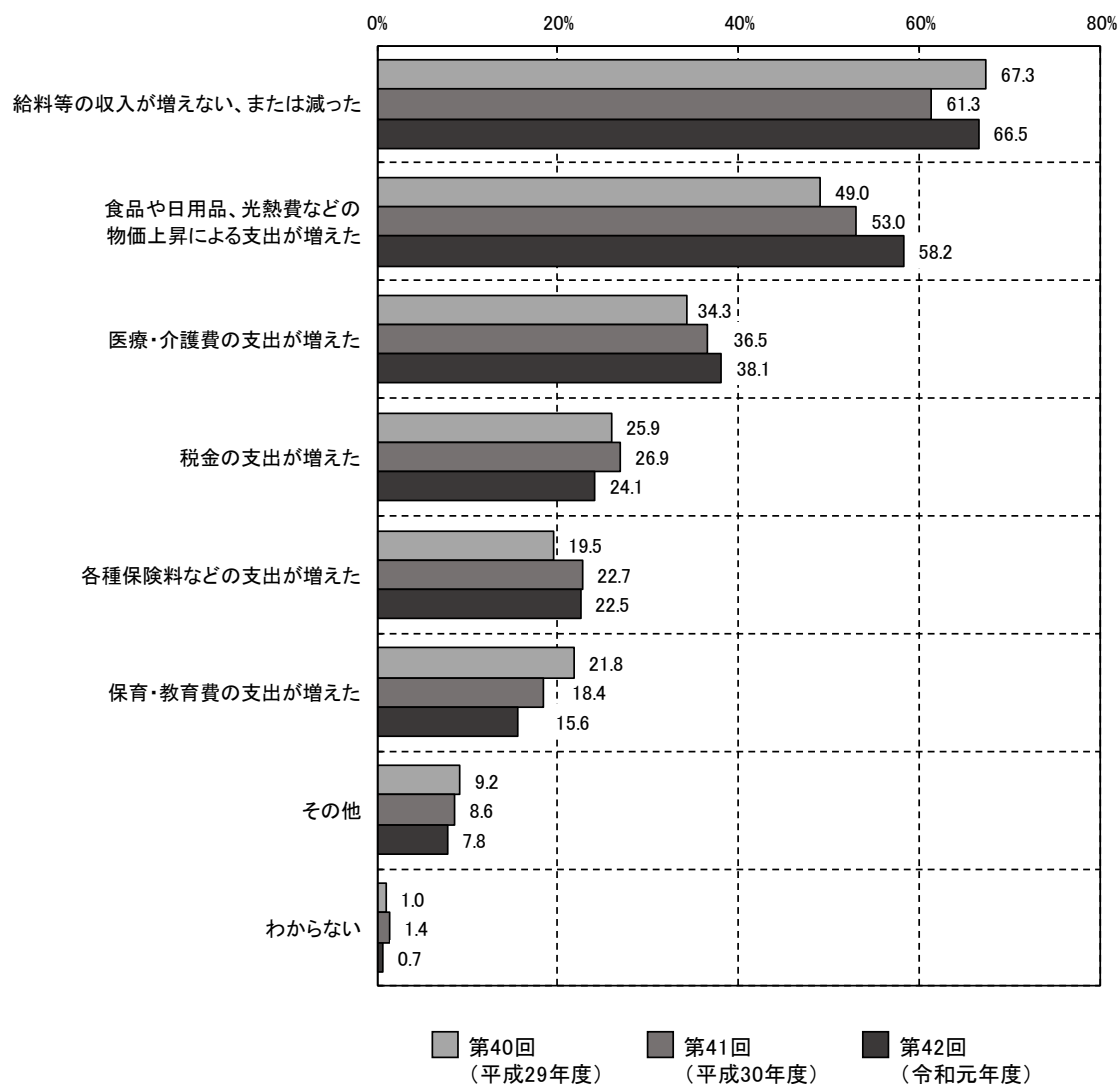
総回答数(N = 1,323)



※ 問1で「苦しくなった」と答えた方のみ

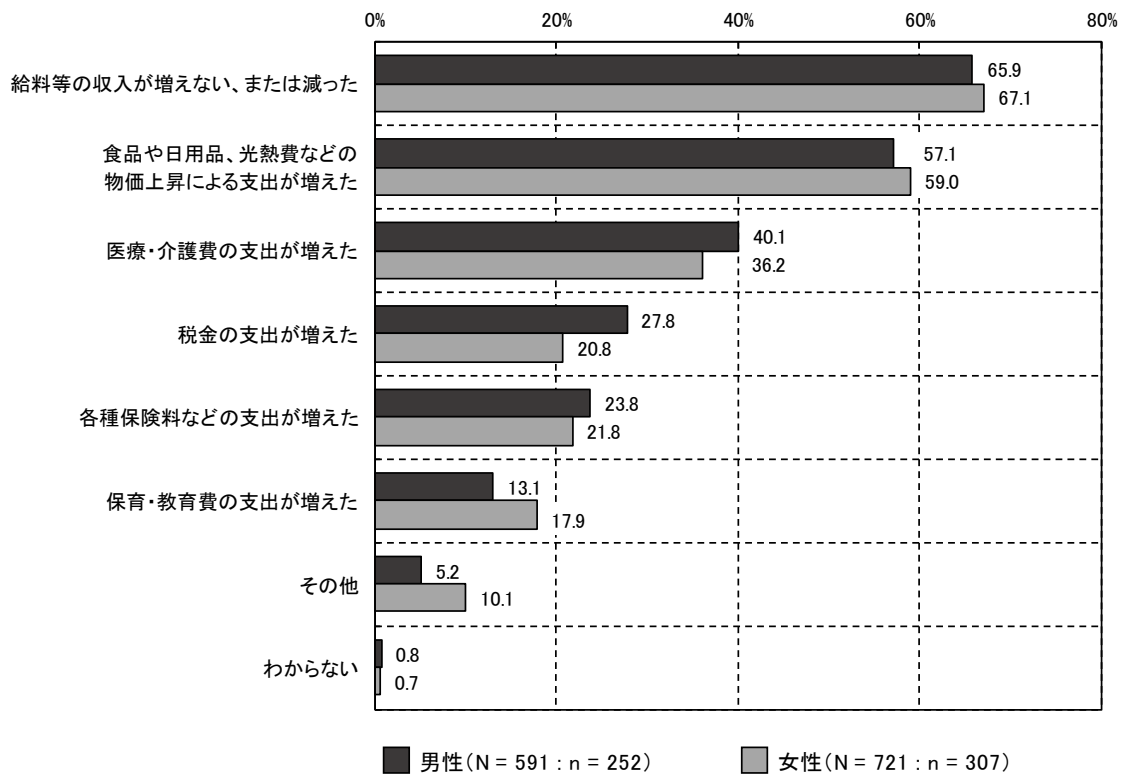
前々回・前回比較（図 1-2-2）で見ると、「食品や日用品、光熱費などの物価上昇による支出が増えた」と「医療・介護費の支出が増えた」は年々高くなっており、「食品や日用品、光熱費などの物価上昇による支出が増えた」は前回に比べて 5.2 ポイント増加している。「給料等の収入が増えない、または減った」は前回に比べて 5.2 ポイント増加している。

図 1-2-2 【前々回・前回比較】くらしが苦しくなったと感じる理由



性別（図 1-2-3）でみると、男女ともに「給料等の収入が増えない、または減った」が最も高くなっており、女性が男性より 1.2 ポイント高くなっている。「税金の支出が増えた」では男性が女性より 7.0 ポイント高く、「保育・教育費の支出が増えた」では女性が男性より 4.8 ポイント高くなっている。

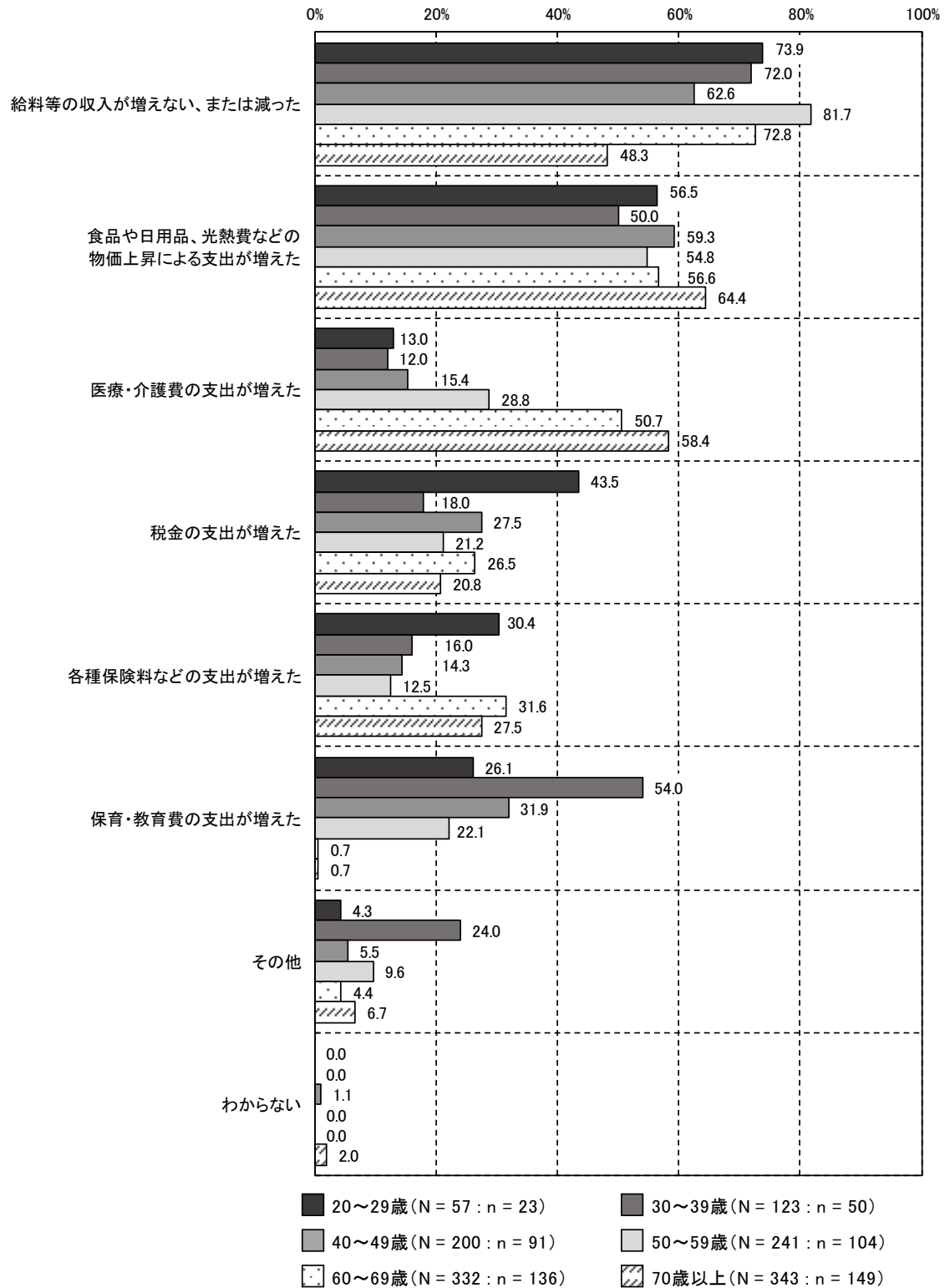
図 1-2-3 【性別】くらしが苦しくなったと感じる理由



※ N=総回答数 n=回答者数

年代別（図 1-2-4）でみると、70 歳以上を除くいずれの年代においても「給料等の収入が増えない、または減った」が最も高く、そのうち 50 歳代が 81.7%と最も高くなっている。70 歳以上では「食品や日用品、光熱費などの物価上昇による支出が増えた」（64.4%）が最も高くなっている。「保育・教育費の支出が増えた」では、30 歳代が他の年代より 20 ポイント以上高くなっている。

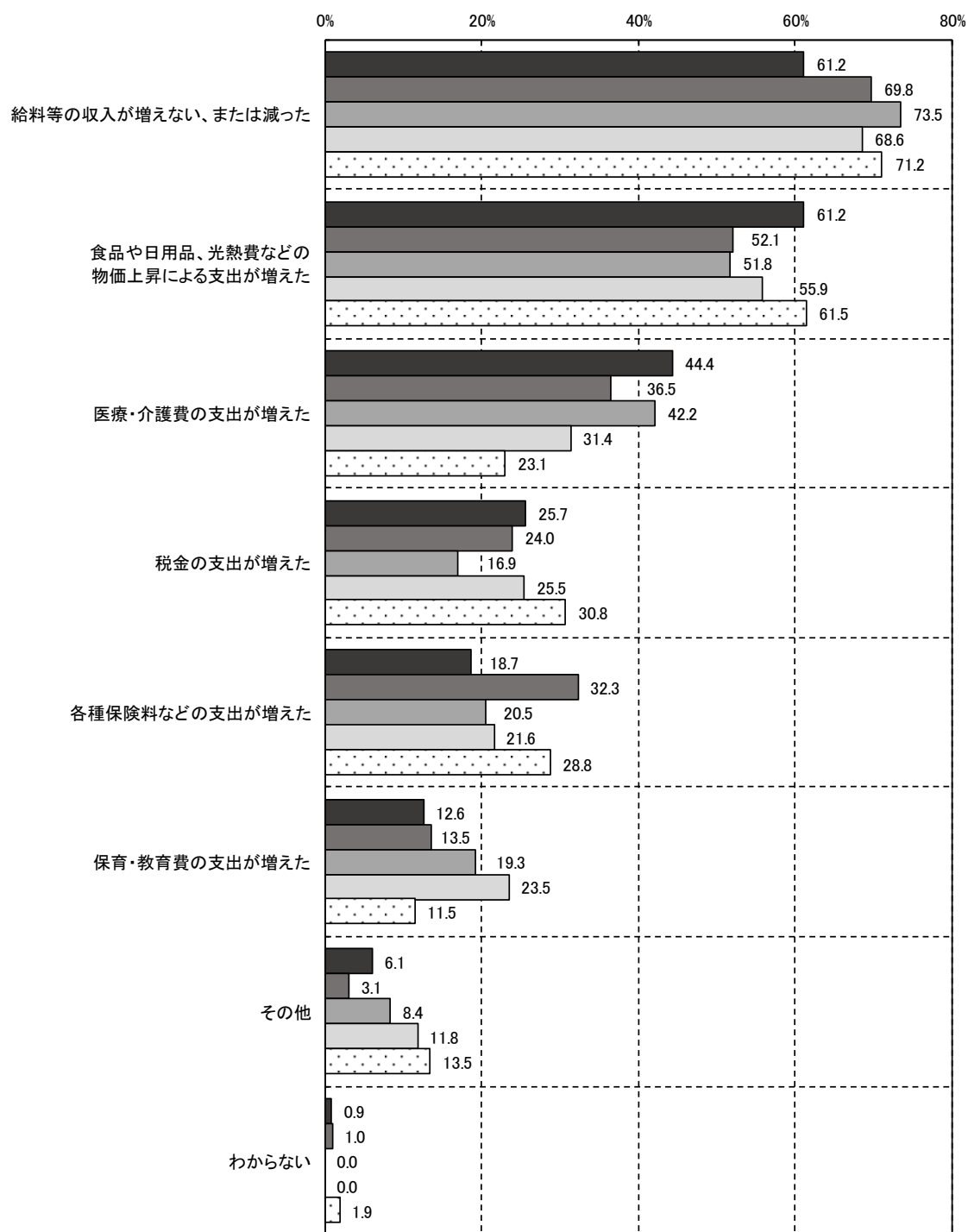
図 1-2-4 【年代別】 暮らしが苦しくなったと感じる理由



※ N=総回答数 n=回答者数

居住圏域別（図 1-2-5）でみると、いずれの居住圏域においても「給料等の収入が増えない、または減った」が最も高く（岐阜圏域は「給料等の収入が増えない、または減った」と「食品や日用品、光熱費などの物価上昇による支出が増えた」が同率）になっている。

図 1-2-5 【居住圏域別】 暮らしが苦しくなったと感じる理由

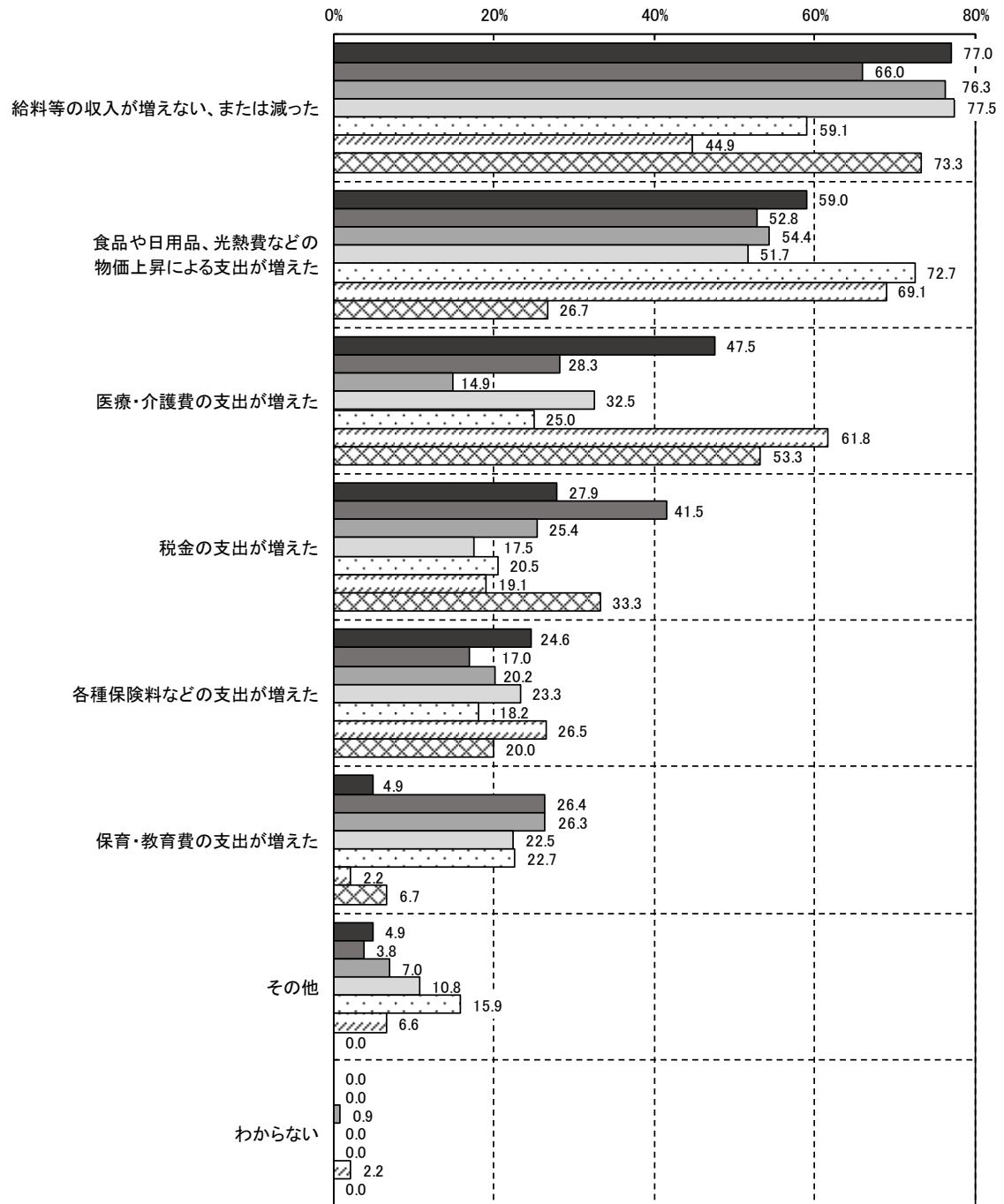


■ 岐阜圏域 (N = 497 : n = 214) ■ 西濃圏域 (N = 224 : n = 96)
 ■ 中濃圏域 (N = 194 : n = 83) ■ 東濃圏域 (N = 244 : n = 102)
 ■ 飛騨圏域 (N = 126 : n = 52)

※ N=総回答数 n=回答者数

職業別（図 1-2-6）でみると、家事従事と無職を除くいずれの職業においても「給料等の収入が増えない、または減った」が最も高く、そのうちパートタイム・アルバイト・派遣が77.5%と最も高くなっている。家事従事と無職では「食品や日用品、光熱費などの物価上昇による支出が増えた」が最も高くなっている。

図 1-2-6 【職業別】 暮らしが苦しくなったと感じる理由



- 自営業 (N = 150 : n = 61)
- 会社・団体役員 (N = 127 : n = 53)
- 正規の従業員・職員 (N = 259 : n = 114)
- パートタイム・アルバイト・派遣 (N = 283 : n = 120)
- 家事従事 (N = 104 : n = 44)
- 無職 (N = 317 : n = 136)
- その他 (N = 32 : n = 15)

※ その他には、自由業、学生を含む。
 ※ N=総回答数 n=回答者数